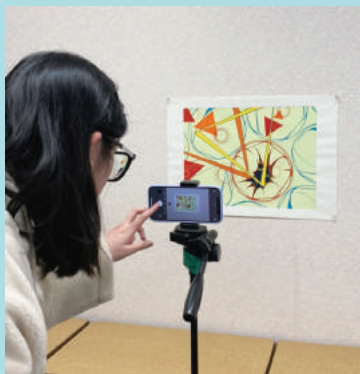


作品撮影 [ポートフォリオ]



ポートフォリオとは

多くの美術系大学での総合型・学校推薦型選抜では、志願書の提出時や面接の際に、作品ファイルや実物作品の提示を求められます。それら作品をまとめたファイルのことを「ポートフォリオ」と呼びます。「ポートフォリオ」という呼称以外に「作品資料」「資料」というように表記の違いもあり、またその内容についても大学によって条件などが異なりますが、基本的には「これまでの自分の活動をまとめたもの」と考えてよいでしょう。

作品写真の役割

スマートフォンの普及で「記録」として写真を扱うことが日常となっています。自分の制作したもの、制作に関わったものを自分で確認するための記録であれば撮影の仕方それほど気をつかわなくてもよいのですが、それでは大学側に見せる資料としては不十分です。「これまでの自分の活動」を魅力的に紹介するためには作品そのものを魅力的に撮影することが不可欠です。

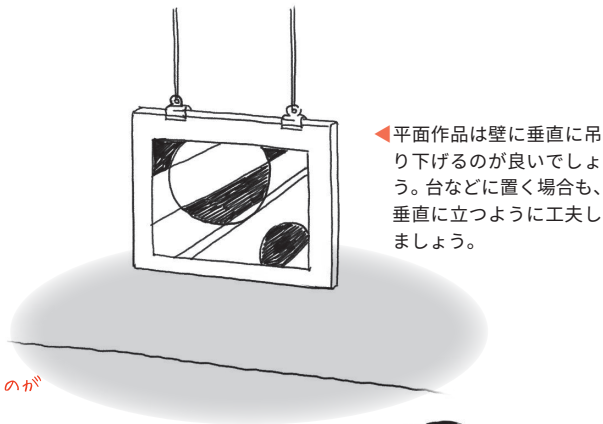
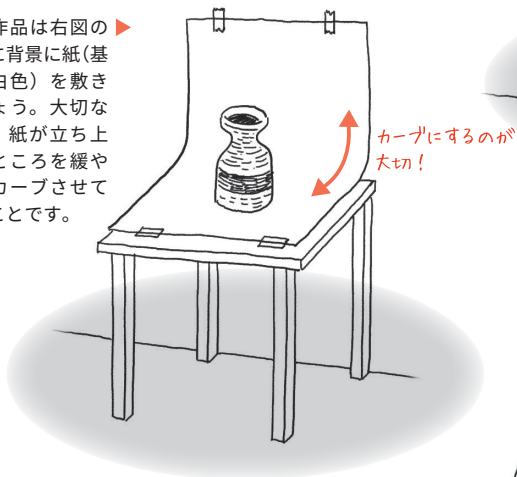
この制作プロセスでは基本的な作品撮影のコツを紹介します。

1

セッティング

作品のタイプによってセッティングを変えましょう。レリーフのように、平面と立体の中間のような作品については2つのセッティングを合わせる必要もあります。

立体作品は右図のように背景に紙(基本は白色)を敷きましょう。大切なのは、紙が立ち上がるところを緩やかにカーブさせておくことです。



カメラはデジカメでも、スマートフォンでも問題ありません。三脚があると良いですが、カメラが動かないように固定し、**タイマー**で撮影しましょう。

2

ライティング

作品に対して均一な光が大切です。直射日光のあたらない明るい日陰がおすすめです。ライティングする場合は下図のように光が反射しないように照明の角度を注意しましょう。

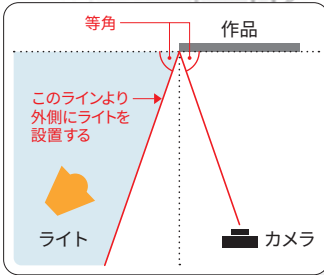
直射日光は避ける
曇り空の日がおすすめ



ライト
この辺り

ライト
この辺り

CHECK



3

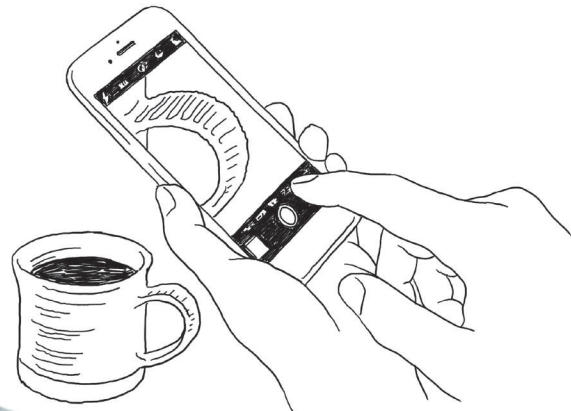
トリミング

作品に対してカメラを水平、垂直に向けましょう。スマートフォンを使用する場合は「グリッド」を表示すると便利です。

フラッシュは
使わない!

タイマーで
撮影しよう

グリッド表示を選択
(機種により異なります)



CHECK

作品の中心とカメラ（ファインダー）の中心を合わせます。中心が合っていれば、作品の上下左右は関係ありません。スマートフォンで撮影する場合はズームを使用すると画像が粗くなる場合があるので注意しましょう。

4

作品の見せ場をアップで

作品の中で特に見せたい部分は近づいてアップで撮影しておきましょう。

5

完成

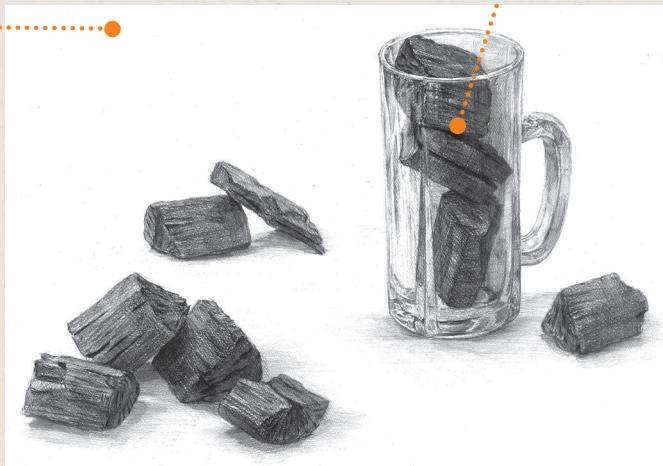
レイアウトまでが大切

作品写真の見栄えはポートフォリオの紙面へのレイアウトで決まります。奇抜な配置をする必要はありません。作品写真と説明文（キャプション）のバランスが美しく見えるようにシンプルにレイアウトしましょう。

デッサンなどのモノクロームの作品は写真をとる際に「白黒モード」で撮りましょう。

デッサン課題①

作品写真が縦位置でも横位置でも配置できるようにスペースを調整しておきましょう。



台紙（プリント用紙）は基本的に白色が良いですが、作品の中の白色を効果的に見せるためや、ポートフォリオの全体のイメージ作りとしてテクスチャや色のついた用紙を選ぶこともおすすめです。

● 時間：9時間 サイズ：B3 画用紙 鉛筆使用

美術部以外の制作として、トーリン美術予備校で基礎的な描写の訓練をしました。透明のコップと炭がモチーフで、自分で台上に配置するところから始めました。絵の中のモチーフの入れ方、質感の描き分けなどかなり勉強になった一枚です。



CHECK

パソコンやタブレットで制作・加工した作品は、プリントをすると思った色と全然違う仕上がりになることがあるので注意してね！（モニターでは基本 RGB ベース、印刷は CMYK ベースの違い）

トーリン美術予備校の「選抜入試対策講座」でより自分のイメージに近いポートフォリオを完成させよう！